(19)日本国特許庁(JP)　(12)公開特許公報(A)　(11)特許出願公開番号
特開2016-10433
(P2016-10433A)
(43)公開日　平成28年1月21日(2016.1.21)

(51)Int.Cl.		F I			テーマコード（参考）
A61F 13/496	(2006.01)	A41B	13/02	V	3B200
A61F 13/15	(2006.01)	A41B	13/02	T	
A61F 13/49	(2006.01)				

審査請求 未請求　請求項の数 7　ＯＬ　（全 19 頁）

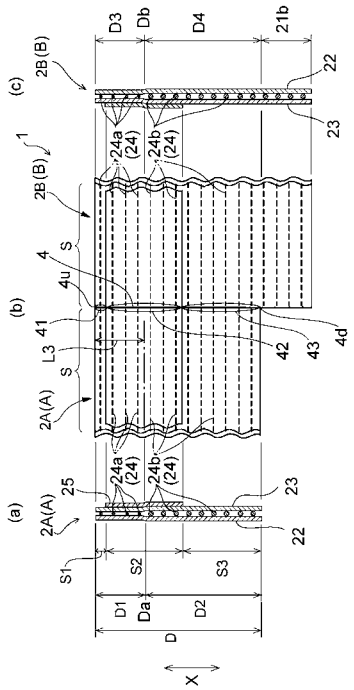
(21)出願番号　特願2014-132138 (P2014-132138)
(22)出願日　平成26年6月27日 (2014.6.27)

(71)出願人　000000918
花王株式会社
東京都中央区日本橋茅場町１丁目１４番１０号
(74)代理人　100076532
弁理士　羽鳥　修
(74)代理人　100112818
弁理士　岩本　昭久
(74)代理人　100101292
弁理士　松嶋　善之
(74)代理人　100107205
弁理士　前田　秀一
(74)代理人　100155206
弁理士　成瀬　源一

最終頁に続く

(54)【発明の名称】パンツ型吸収性物品

(57)【要約】
【課題】弱シール領域を起点にしてサイドシール部を容易に引き裂くことができ、着用者から取り外す際の手間や時間を削減可能なパンツ型吸収性物品を提供する。
【解決手段】本発明のパンツ型吸収性物品１は、サイドシール部４が、シール強度が高いシール領域４１，４３に上下を挟まれた弱シール領域４２を有している。パンツ型吸収性物品１の腹側部Ａ及び背側部Ｂには、筒状胴回り部Ｄの周方向に延びる弾性部材２４が配されており、一方又は双方に、太さの異なる弾性部材が配された弱伸長応力域Ｄ１，Ｄ３及び強伸長応力域Ｄ２，Ｄ４が形成されている。強伸長応力域Ｄ２，Ｄ４は、弱伸長応力域Ｄ１,Ｄ３より下方に位置し、それぞれの一部分が、筒状胴回り部Ｄにおける弱シール領域４２に対応する高さ範囲Ｓ２内に位置し、弱伸長応力域Ｄ１，Ｄ３と強伸長応力域Ｄ２，Ｄ４との境界Ｄａ，Ｄｂが同高さ範囲Ｓ２内に位置している。
【選択図】図５



【特許請求の範囲】
【請求項１】
着用者の腹側に配される腹側部、着用者の股間部に配される股下部及び着用者の背側に配される背側部を備え、腹側部の両側縁部と背側部の両側縁部とが接合されて、一対のサイドシール部、及び上端にウエスト開口部を有する筒状胴回り部が形成されている、パンツ型吸収性物品であって、
前記サイドシール部は、シール強度が相対的に高いシール領域に上下を挟まれた弱シール領域を有しており、
腹側部及び背側部のそれぞれに、筒状胴回り部の周方向に延びる弾性部材が上下方向に間隔を設けて複数本配されており、腹側部及び背側部の少なくとも一方に、相対的に細い弾性部材が配された弱伸長応力域及び相対的に太い弾性部材が配された強伸長応力域が形成されており、
強伸長応力域は、弱伸長応力域より下方に位置し、弱伸長応力域及び強伸長応力域それぞれの一部分が、筒状胴回り部における、弱シール領域に対応する高さ範囲内に位置し、弱伸長応力域と強伸長応力域との境界が、同高さ範囲内に位置している、パンツ型吸収性物品。
【請求項２】
腹側部及び背側部の両方に、前記弱伸長応力域及び前記強伸長応力域が形成されている、請求項１に記載のパンツ型吸収性物品。
【請求項３】
前記弱伸長応力域は、上下方向の一定幅あたりの伸長応力が、前記強伸長応力域よりも小さい、請求項１又は２に記載のパンツ型吸収性物品。
【請求項４】
前記弱シール領域は、シール強度低減材を、サイドシール部に配して形成されている、請求項１～３の何れか１項に記載のパンツ型吸収性物品。
【請求項５】
前記シール強度低減材が、シート材及びホットメルト接着剤の少なくとも一方である、請求項１～４の何れか１項に記載のパンツ型吸収性物品。
【請求項６】
サイドシール部の上端から、弱伸長応力域と強伸長応力域との境界までの距離Ｌ３が、サイドシール部の全長の２０％以上６０％以下である、請求項１～５の何れか１項に記載のパンツ型吸収性物品。
【請求項７】
着用者の腹側に配される腹側シート部材と、着用者の背側に配される背側シート部材と、腹側シート部材及び背側シート部材に架け渡して固定された吸収性本体とを具備し、腹側シート部材の両側縁部と背側シート部材の両側縁部とが接合されて、前記一対のサイドシール部及び前記筒状胴回り部が形成されている、請求項１～６の何れか１項に記載のパンツ型吸収性物品。

【発明の詳細な説明】
【技術分野】
【０００１】
本発明は、パンツ型吸収性物品に関する。
【背景技術】
【０００２】
従来、着用者の腹側に配される腹側部、着用者の股間部に配される股下部及び着用者の背側に配される背側部に亘る砂時計状の外包材と、該外包材の内面側に固定された吸収性本体とを備え、腹側部における外包材の両側縁部と背側部における外包材の両側縁部とが接合されて、一対のサイドシール部、ウエスト開口部及び一対のレッグ開口部が形成されているパンツ型吸収性物品が知られている。

また、従来のパンツ型吸収性物品として、外包材が、着用者の腹側に配される腹側シート部材と、着用者の背側に配される背側シート部材とに分割されており、吸収性本体が、腹側シート部材及び背側シート部材に架け渡すように固定されていると共に、腹側シート部材の左右の両側縁部と背側シート部材の左右両側縁部とが一対のサイドシール部において接合されているパンツ型吸収性物品が知られている（例えば、特許文献１参照）。

【０００３】

このようなパンツ型吸収性物品は、廃棄する目的で脱がす際に、サイドシール部を、おむつの縦方向に引き裂くが、従来のパンツ型吸収性物品においては、サイドシール部を引き裂くことが必ずしも容易ではない場合があった。

【０００４】

また、本出願人は、サイドシール部の一部に非接合部を設けて、指を引っ掛けることのできる孔を形成し、その孔に指を引っ掛けて引き上げることにより、容易に穿くことができるようにした使い捨ておむつを提案した（特許文献２の図３参照）。この使い捨ておむつは、その穴を起点として引き裂くことも可能である。しかし、使用前から孔が開いていると、着用中に、意図せずに孔に指や物が引っ掛かる恐れがある。

また、特許文献３には、サイドシール部に、シール強度が強い領域、弱い領域及びそれらの中間の領域を、上端からこの順に形成することが記載されている。しかし、シール強度が弱い領域から引き裂くように誘導する工夫は施されていない。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００５】

【特許文献１】特表２００８－５０８０８２号公報

【特許文献２】特開２００４－２６７３３５号公報

【特許文献３】特開２００２－２９１８０１号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００６】

したがって本発明の課題は、前述した従来技術が有する欠点を解消し得るパンツ型吸収性物品を提供することにある。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

本発明は、着用者の腹側に配される腹側部、着用者の股間部に配される股下部及び着用者の背側に配される背側部を備え、腹側部の両側縁部と背側部の両側縁部とが接合されて、一対のサイドシール部、及び上端にウエスト開口部を有する筒状胴回り部が形成されている、パンツ型吸収性物品であって、前記サイドシール部は、シール強度が相対的に高いシール領域に上下を挟まれた弱シール領域を有しており、腹側部及び背側部のそれぞれに、筒状胴回り部の周方向に延びる弾性部材が上下方向に間隔を設けて複数本配されており、腹側部及び背側部の少なくとも一方に、相対的に細い弾性部材が配された弱伸長応力域及び相対的に太い弾性部材が配された強伸長応力域が形成されており、強伸長応力域は、弱伸長応力域より下方に位置し、弱伸長応力域及び強伸長応力域それぞれの一部分が、筒状胴回り部における、弱シール領域に対応する高さ範囲内に位置し、弱伸長応力域と強伸長応力域との境界が、同高さ範囲内に位置している、パンツ型吸収性物品を提供するものである。

【発明の効果】

【０００８】

本発明のパンツ型着用物品によれば、弱シール領域を起点にしてサイドシール部を容易に引き裂くことができ、着用者から取り外す際の手間や時間を削減可能である。

【図面の簡単な説明】

【０００９】

【図１】図１は、本発明の一実施形態であるパンツ型使い捨ておむつの使用状態（着用状

態）を示す斜視図である。
【図２】図２は、図１に示すパンツ型使い捨ておむつの展開且つ伸長状態を示す一部破断平面図である。展開且つ伸長状態とは、おむつの両側部に存する接合部（サイドシール部）を引き剥がして、パンツ型吸収性物品を展開状態とし、その展開状態の吸収性物品を、各部の弾性部材を伸長させて、設計寸法（弾性部材の影響を一切排除した状態で平面状に広げたときの寸法と同じ）となるまで拡げた状態をいう。
【図３】図３は、図１に示すパンツ型使い捨ておむつの腹側部側をおむつ外面側から見た伸長状態の一部破断拡大図である。
【図４】図４は、図１に示すパンツ型使い捨ておむつの背側部側をおむつ外面側から見た伸長状態の一部破断拡大図である。
【図５】図５は、（ｂ）図１に示すパンツ型使い捨ておむつのサイドシール部及びその両側部分を、おむつ内面側から見た状態を示す模式図、（ａ）腹側部の縦断面を示す断面図、（ｃ）背側部の縦断面を示す断面図である。
【図６】図６は、図１に示すパンツ型使い捨ておむつのサイドシール部の好ましい引き裂き方の一例の説明図である。
【図７】図７は、図１に示すパンツ型使い捨ておむつにおける各伸縮部のおむつ幅方向に沿う断面を示す図であり、（ａ）は、弾性部材を伸長させて襞をなくした状態、（ｂ）は弾性部材が収縮して襞が形成されている状態を示す図である。
【発明を実施するための形態】
【００１０】
以下、本発明のパンツ型吸収性物品を、その好ましい実施形態に基づき図面を参照しながら説明する。
本発明の一実施形態であるパンツ型使い捨ておむつ１（以下、単におむつ１ともいう）は、図１に示すように、着用時に、着用者の腹側に配される腹側部Ａと、着用者の背側に配される背側部Ｂと、腹側部Ａと背側部Ｂとの間に位置し、着用者の股間部に配される股下部Ｃを有しており、腹側部Ａの両側縁部と背側部Ｂの両側縁部とが接合されて、一対のサイドシール部４，４、及び上端にウエスト開口部５を有する筒状胴回り部Ｄが形成されている。
【００１１】
より具体的には、図１及び図２に示すように、腹側シート部材２Ａと、着用者の背側に配される矩形状の背側シート部材２Ｂと、腹側シート部材２Ａ及び背側シート部材２Ｂに架け渡して固定された吸収性本体３とを具備し、腹側シート部材２Ａの両側縁部２ａ，２ａと背側シート部材２Ｂの両側縁部２ｂ，２ｂとが接合されて、前記一対のサイドシール部４，４、上端にウエスト開口部５を有する筒状胴回り部Ｄ、及び一対のレッグ開口部６，６が形成されている。
【００１２】
なお、本明細書において、おむつ長手方向（物品長手方向）は、腹側部Ａから股下部Ｃを経て背側部Ｂに亘る方向又はその逆方向（図２中Ｘ方向）であり、おむつ幅方向（物品幅方向）は、着用者の胴回り方向に沿う方向であり、物品長手方向と交差する方向（図２中Ｙ方向）である。また、上下方向は、図１に示すように、ウエスト開口部側を上側、股下部Ｃを下側としたときの上下方向である。腹側部Ａや背側部Ｂにおける上下方向は、おむつ長手方向（物品長手方向）と略同じであるため、腹側部Ａや背側部Ｂにおける上下方向は、おむつ長手方向（物品長手方向）と同じ符号Ｘを用いる。以下、おむつの上下方向又はおむつ長手方向（物品長手方向）を単にＸ方向、おむつ幅方向（物品幅方向）を単にＹ方向ともいう。
【００１３】
以下、本実施形態のおむつ１について、より具体的に説明する。
腹側シート部材２Ａは、図２に示すように、Ｘ方向の長さＬａが、サイドシール部４の長さＬ４と同じであり、腹側シート部材２Ａは、左右両側にサイドシール部４，４を有する本体部２０ａを有する一方、本体部２０ａから股下部Ｃ側に延出する延出部を有してい

ない。
他方、背側シート部材２Ｂは、図２に示すように、Ｘ方向の長さＬｂが、サイドシール部４の長さＬ４よりも長く、それによって、左右両側にサイドシール部４，４を有する本体部２０ｂと、本体部２０ｂから股下部Ｃ側に延出し、左右両側にサイドシール部４，４を有しない延出部２１ｂとが形成されている。
以下、腹側シート部材２Ａ（本体部２０ａ）を、腹側本体部２０ａともいい、背側シート部材２Ｂの本体部２０ｂ及び延出部２１ｂを、背側本体部２０ｂ及び背側延出部２１ｂともいう。
【００１４】
おむつ１の吸収性本体３は、図２に示すように、液透過性の表面シート３１、液不透過性又は撥水性の裏面シート３２、及び両シート３１、３２間に介在配置された液保持性の吸収体３３を有しており、Ｘ方向に長い長方形状に形成されている。吸収体３３は、パルプ繊維等の繊維の集合体（不織布であっても良い）からなる吸収性コア又はこれに吸水性ポリマーの粒子を保持させてなる吸収性コアと、吸収性コアを被覆するティッシュペーパーや不織布等からなるコアラップシートからなる。吸収体３３も、Ｘ方向に長い長方形状に形成されている。吸収体３３は、長手方向の両側に、吸収性コアの形成材料が存在しないか又は該形成材料の坪量が他の部分より少ない低剛性部３３ｄを有している。
【００１５】
吸収性本体３の長手方向の両側部には、液抵抗性ないし撥水性で且つ通気性の素材から構成された側方カフス３４，３４が形成されている。各側方カフス３４の自由端の近傍には、側方カフス弾性部材３５が伸長状態で配されている。おむつ１の着用中には、側方カフス弾性部材３５が収縮することにより側方カフス３４が起立し、吸収性本体３から幅方向外方への液の流出が阻止される。表面シート３１、裏面シート３２、及び吸収体３３の吸収性コアやコアラップシートとしては、それぞれ、この種の吸収性物品に従来用いられているものと同様のものを用いることができる。吸収性本体３の外側には、裏面シート３２に重ねて、不織布やフィルム等の外装シートを配することもできる。
【００１６】
腹側シート部材２Ａは、おむつ１の展開且つ伸長状態（図２参照）において、横長の長方形状をなしており、Ｘ方向に沿う左右一対の側縁部２ａ，２ａと、それぞれＹ方向に沿う上縁部２ｃ及び下縁部２ｄを有している。背側シート部材２Ｂも、同様に、おむつ１の展開且つ伸長状態（図２参照）において、横長の長方形状をなしており、Ｘ方向に沿う左右一対の側縁部２ｂ，２ｂと、Ｙ方向に沿う上縁部２ｃ及び下縁部２ｄを有している。腹側シート部材２Ａと背側シート部材２Ｂは、図２に示すように、Ｘ方向の長さがＹ方向において均一である。
【００１７】
そして、腹側シート部材２Ａの側縁部２ａと、背側シート部材２Ｂの側縁部２ｂ（詳細には、その一部である接合部２ｂ’）とが接合されていることによって、おむつ１に、前述した一対のサイドシール部４，４が形成されている。この接合には、例えばヒートシール、超音波シール、接着剤等の公知の接合手段が用いられる。また、この接合によって、サイドシール部４，４と共に、ウエスト開口部５及び一対のレッグ開口部６，６が形成されている。
【００１８】
吸収性本体３は、長手方向の一端側（腹側シート部材２Ａと重なっている部分）が、腹側シート部材２ＡのＹ方向の中央領域に接着剤を介して固定され、長手方向の他端側（背側シート部材２Ｂと重なっている部分）が、背側シート部材２ＢのＹ方向の中央領域に接着剤を介して固定されている。
【００１９】
おむつ１における腹側シート部材２Ａ及び背側シート部材２Ｂは何れも、図３及び図４に示すように、おむつの外面をなす外層シート２２と、外層シート２２の内面側に配された内層シート２３と、両シート２２，２３間に配された複数本の糸状の弾性部材２４を備

えている。

【００２０】

また、腹側シート部材２Ａ及び背側シート部材２Ｂは、何れも、図２及び図５に示すように、内層シート２３の内面側に、本体端部固定用シート２５が配されている。本体端部固定用シート２５は、内層シート２３側の面が、吸収性本体３の端部における肌当接面及び内層シート２３に接着剤を介して接合されているとともに、サイドシール部４における、腹側部側の内層シート２３と背側部側の内層シート２３との間に介在して、サイドシール部４に、弱シール領域４２を形成している。

【００２１】

弱シール領域４２は、シール強度が相対的に高いシール領域４１，４３に上下を挟まれた領域であり、上側のシール領域４１よりもシール強度が低く、下側のシール領域４３よりもシール強度が低い。なお、上側のシール領域４１のシール強度と下側のシール領域４３のシール強度は、同じでも、異なっていても良い。

【００２２】

サイドシール部４に、弱シール領域４２を形成する方法としては、サイドシール部の一部にシール強度が低い領域を形成し得る各種公知の方法を採用することができ、例えば、腹側シート部材２Ａと背側シート部材２Ｂとを重ねて、ヒートシールや超音波シールする際に、その一部を他の部分より弱く加圧する方法、その一部を他の部分より低温で加圧する方法等を一例として挙げることができる。

弱シール領域４２を形成する方法としては、腹側部Ａを形成する部材（腹側シート部材２Ａ）と、背側部Ｂを形成する部材（背側シート部材２Ｂ）とを、ヒートシールや超音波シール等により接合する際に、それらの部材間や一方又は双方の部材中に、互いに接合されるシール面に熱を伝えにくくするシール強度低減材を配することが好ましい。本実施形態のおむつ１においては、上述した本体端部固定用シート２５が、腹側部Ａ及び背側部Ｂそれぞれの全幅に亘って配され、それぞれの一部がサイドシール部４にも存在している。また、サイドシール部４及びその近傍における、本体端部固定用シート２５と内層シート２３との間にホットメルト接着剤が介在している。

本実施形態のおむつ１においては、この本体端部固定用シート２５と、本体端部固定用シート２５と内層シート２３との間に配されたホットメルト接着剤が、シール強度低減材として機能している。

【００２３】

上記のようなシール強度低減材を、サイドシール部４に配して、弱シール領域４２を形成することは、生産上、接着強度の制御が容易であり、枚数や坪量でシール強度の制御可能である等の観点から好ましい。なお、シール強度低減材は、腹側部Ａを形成する部材（本実施形態では腹側シート部材２Ａ）のみに配しても良いし、背側部Ｂを形成する部材（本実施形態では背側シート部材２Ｂ）のみに配いても良い。また、シール強度低減材としてのシート材は、腹側部Ａの両側部のみ、あるいは背側部Ｂの両側部のみに配しても良い。

【００２４】

おむつ１における腹側シート部材２Ａ及び背側シート部材２Ｂは何れも、図３及び図４に示すように、おむつの外面をなす外層シート２２と、外層シート２２の内面側に配された内層シート２３と、両シート２２，２３間に配された複数本の糸状の弾性部材２４を備え、腹側本体部２０ａ及び背側本体部２０ｂに、それぞれ、ウエスト伸縮部Ｇ１及び胴回り伸縮部Ｇ２が形成され、背側延出部２１ｂに、延出部伸縮部Ｇ３が形成されている。

ウエスト伸縮部Ｇ１は、腹側シート部材２Ａ及び背側シート部材２Ｂのそれぞれにおいて、吸収性本体３の長手方向の端部３ａ，３ｂよりウエスト開口部５側に形成されている。胴回り伸縮部Ｇ２は、腹側本体部２０ａ及び背側本体部２０ｂのそれぞれにおいて、ウエスト伸縮部Ｇ１より下方に形成されている。延出部伸縮部Ｇ３は背側延出部２１ｂに形成されている。胴回り伸縮部Ｇ２及び延出部伸縮部Ｇ３は、それぞれ、おむつの幅方向Ｙにおいて、少なくとも、吸収性本体３の両側縁３ｃ，３ｃそれぞれより外方に位置する部

分に形成されている。

【００２５】

おむつ１においては、図３及び図４に示すように、ウエスト伸縮部Ｇ１は、腹側シート部材２Ａ又は背側シート部材２Ｂにおける側部接着領域２７，２７間の全域に亘って伸縮性を発現するように形成されており、他方、胴回り伸縮部Ｇ２及び延出部伸縮部Ｇ３は、吸収性本体３の両側縁の外方においては伸縮性を発現し、吸収性本体３と重なる部分、特に吸収性本体３の幅方向中央部と重なる部分において伸縮性を発現しないように、おむつ１の左右に分割された状態に形成されている。

【００２６】

筒状胴回り部Ｄを形成する腹側本体部２０ａ及び背側本体部２０ｂには、それぞれ、複数本の弾性部材２４が、筒状胴回り部Ｄの周方向に沿って延びるように且つ上下方向Ｘに間隔を開けて伸長状態で配されており、また、背側延出部２１ｂにも、筒状胴回り部Ｄに配された弾性部材２４と略平行に、複数本の弾性部材２４が配されている。

【００２７】

また、本実施形態のおむつ１における腹側シート部材２Ａには、図５に示すように、相対的に細い弾性部材２４ａが配された弱伸長応力域Ｄ１と、相対的に太い弾性部材２４ｂが配された強伸長応力域Ｄ２が形成されており、強伸長応力域Ｄ２は、弱伸長応力域Ｄ１より下方に位置している。

また、弱伸長応力域Ｄ１及び強伸長応力域Ｄ２それぞれの一部分が、筒状胴回り部Ｄにおける、弱シール領域４２に対応する高さ範囲Ｓ２（図５参照）内に位置し、弱伸長応力域Ｄ１と強伸長応力域Ｄ２との境界Ｄａが、同高さ範囲Ｓ２内に位置している。

腹側部Ａの弱伸長応力域Ｄ１及び強伸長応力域Ｄ２に関し、弱シール領域４２に対応する高さ範囲Ｓ２は、腹側部Ａにおける、一方のサイドシール部４の弱シール領域４２と他方のサイドシール部４の弱シール領域４２との間に位置する部分である。

【００２８】

また、背側シート部材２Ｂにも、同様に、相対的に細い弾性部材２４ａが配された弱伸長応力域Ｄ３と、相対的に太い弾性部材２４ｂが配された強伸長応力域Ｄ４が形成されており、強伸長応力域Ｄ４は、弱伸長応力域Ｄ３より下方に位置している。そして、弱伸長応力域Ｄ３及び強伸長応力域Ｄ４それぞれの一部分が、筒状胴回り部Ｄにおける、弱シール領域４２に対応する高さ範囲Ｓ２（図５参照）内に位置し、弱伸長応力域Ｄ１と強伸長応力域Ｄ２との境界Ｄｂが、同高さ範囲Ｓ２内に位置している。

背側部Ｂの弱伸長応力域Ｄ３及び強伸長応力域Ｄ４に関し、弱シール領域４２に対応する高さ範囲Ｓ２は、背側部Ｂにおける、一方のサイドシール部４の弱シール領域４２と他方のサイドシール部４の弱シール領域４２との間に位置する部分である。

【００２９】

本実施形態のおむつ１は、通常のパンツ型使い捨ておむつと同様にして着用することができる。着用後には、通常のパンツ型使い捨ておむつと同様に、サイドシール部を引き裂くことによって着用者から取り外すことができる。

本実施形態のおむつ１のサイドシール部４を、ウエスト開口部５側から引き裂く際には、例えば、図６（ａ）に示すように、ウエスト開口部５の近傍において、サイドシール部４の両側をそれぞれ手で掴み、図６（ｂ）に示すように、サイドシール部４の弱シール領域４２を引き裂く。この際、本実施形態のおむつ１における腹側シート部材２Ａ及び背側シート部材２Ｂには、弱伸長応力域Ｄ１，Ｄ３及び強伸長応力域Ｄ２，Ｄ４が前述した位置関係で存在するため、指先が、弱シール領域４２の近傍に位置する弱伸長応力域Ｄ１，Ｄ３と強伸長応力域Ｄ２，Ｄ４との境界Ｄａ，Ｄｂ付近へと誘導されるとともに、弱シール領域４２はシール強度が低く容易に引き裂くことができるため、弱シール領域４２を探すのに手間取ったりすることなく、弱シール領域４２を容易に引き裂くことができる。

そして、図６（ｃ）に示すように、一方の手はサイドシール部４の片側を把持したまま、他方の手を、サイドシール部４のもう片側を把持しつつ動かすことにより、サイドシール部４の全体を容易に引き裂くことができる。

【００３０】
本実施形態のおむつ１によれば、このようにして、弱シール領域４２を起点にしてサイドシール部４の全体を容易に引き裂くことができ、着用者から取り外す際の手間や時間を削減可能である。
しかも、サイドシール部４における、弱シール領域４２よりウエスト開口部５側に、弱シール領域４２よりもシール強度の高いシール領域４１を有するため、着用中に意図せずに、弱シール領域４２を引き裂いて、外観が悪化したり、おむつがズレ落ち易くなってしまうといったことも防止することができる。
【００３１】
上述した効果は、腹側部Ａ及び背側部Ｂの何れか一方に、弱伸長応力域及び強伸長応力域が形成されている場合にも奏されるが、本実施形態のおむつ１のように、腹側部Ａ及び背側部Ｂの両方に、弱伸長応力域及び強伸長応力域が形成されている場合により確実に奏される。
【００３２】
斯かる効果が一層確実に奏されるようにする観点から、弱伸長応力域Ｄ１（Ｄ３）に配する弾性部材２４ａの太さと、強伸長応力域Ｄ２（Ｄ４）に配する弾性部材２４ｂの太さの差は、好ましくは１００ｄｔｅｘ以上、より好ましくは４００ｄｔｅｘ以上であり、好ましくは、１０００ｄｔｅｘ以下、より好ましくは７００ｄｔｅｘ以下である。
また、弱伸長応力域Ｄ１（Ｄ３）に配する弾性部材２４ａの太さは、好ましくは６００ｄｔｅｘ以下、より好ましくは４００ｄｔｅｘ以下であり、また、好ましくは２００ｄｔｅｘ以上、より好ましくは３００ｄｔｅｘ以上である。
また、強伸長応力域Ｄ２（Ｄ４）に配する弾性部材２４ｂの太さは、好ましくは７００ｄｔｅｘ以上、より好ましくは８００ｄｔｅｘ以上であり、また、好ましくは１０００ｄｔｅｘ以下、より好ましくは９００ｄｔｅｘ以下である。
【００３３】
同様の観点から、強伸長応力域Ｄ２又はＤ４に配された弾性部材２４ｂの内、弱シール領域４２に対応する高さ範囲Ｓ２内に位置する弾性部材２４ｂの本数（上下方向に間欠配置する弾性部材の本数）は、好ましくは１本以上、より好ましくは２本以上、更に好ましくは３本以上であり、弱伸長応力域Ｄ１又はＤ３に配された弾性部材２４ａの内、弱シール領域４２に対応する高さ範囲Ｓ２内に位置する弾性部材２４ａの本数（上下方向に間欠配置する弾性部材の本数）は、好ましくは２本以上、より好ましくは４本以上である。
【００３４】
また、腹側部Ａ又は背側部Ｂのそれぞれにおいて、弱伸長応力域及び強伸長応力域に配する弾性部材の伸長倍率は、同程度であることが好ましく、腹側部Ａ又は背側部Ｂのそれぞれにおいて、弱伸長応力域は、下記方法により測定した、上下方向の一定幅あたりの伸長応力が、強伸長応力域よりも小さいことが好ましい。
〔伸長応力の測定方法〕
展開且つ伸長状態（図２参照）の物品の外包材（腹側シート部材又は背側シート部材）から、物品横方向Ｙの長さが３０ｍｍ、物品縦方向Ｘの長さが３０ｍｍの測定用サンプルを切り出す。その測定用サンプルを、１００％伸長状態にしたときの荷重を伸長応力とする。すなわち、テンシロン引っ張り試験機（オリエンテック社製、商品名「ＲＴＡ－１００」）を用い、常法に従って測定（チャック間距離２０ｍｍ、引張速度３００ｍｍ／ｍｉｎ）し、１００％伸長になった時の荷重を測定し、これを伸長応力とする。
【００３５】
なお、弾性部材の伸長倍率は、弱伸長応力域及び強伸長応力域の何れについても、好ましくは２～４倍であり、より好ましくは２．５～３．５倍である。
弱伸長応力域及び強伸長応力域に配する弾性部材の伸長倍率が同程度とは、弱伸長応力域に配する弾性部材の伸長倍率と強伸長応力域に配する弾性部材の伸長倍率との比（前者／後者）が０．８～１．２であることを意味し、該比（前者／後者）は、０．９～１．１であることがより好ましい。

〔弾性部材の伸長倍率の測定方法〕
製品の最大伸長状態において、製品横方向に所定長さ（３０ｍｍ）で切り出す。弾性部材の非伸長状態において、長さＩ（ｍｍ）を測定する。
弾性部材の伸長倍率は、下記式により求められる。
弾性部材の伸長倍率＝（３０／Ｉ）

【００３６】
また、サイドシール部４の上端から、弱伸長応力域と強伸長応力域との境界までの距離Ｌ３は、サイドシール部の全長（上下方向の長さ）の好ましくは、２０％以上６０％以下であり、より好ましくは３０％以上５０％以下である。

【００３７】
また、弱シール領域４２は、下記方法により測定したシール強度が、好ましくは３０Ｎ／３０ｍｍ以下、より好ましくは２５Ｎ／３０ｍｍ以下であり、また、好ましくは１０Ｎ／３０ｍｍ以上、より好ましくは１５Ｎ／３０ｍｍ以上である。また、シール領域４１と弱シール領域４２とのシール強度の差、及びシール領域４３と弱シール領域４２とのシール強度の差は、それぞれ、好ましくは５Ｎ／３０ｍｍ以上、より好ましくは１０Ｎ／３０ｍｍ以上であり、また、好ましくは２０Ｎ／３０ｍｍ以下、より好ましくは１５Ｎ／３０ｍｍ以下である。シール領域４１のシール強度とシール領域４３のシール強度とが同じとは、下記方法により測定したシール強度の差が４Ｎ／３０ｍｍ以下であることを意味する。
〔シール強度の測定方法〕
サイドシール部４を含むおむつ(物品)の側部部分から、腹側部Ａの外包材（腹側シート部材２Ａ）と、腹側部Ｂの外包材（背側シート部材２Ｂ）とがサイドシール部４で結合した構成を有する矩形状のサンプルシートを切り出した。サンプルシートは、サイドシール部４の延在方向と平行な短辺の長さを３０ｍｍ、サイドシール部４の延在方向と直交する長辺の長さを５０ｍｍとした。長辺の長さは、腹側部Ａ側の部分の長さと背側部Ｂ側の部分の長さの合計である。
得られたサンプルシートの１８０°剥離強度を、テンシロン引っ張り試験機（オリエンテック社製、商品名「ＲＴＡ－１００」）を用い、常法に従って測定（チャック間距離２０ｍｍ、引張速度３００ｍｍ／ｍｉｎ）し、これを、サイドシール部４のシール強度とした。サンプルシートは、腹側部Ａ側の部分及び背側部Ｂ側の部分を、それぞれ、テンシロン引っ張り試験機のチャックに挟み、サイドシール部４をチャック間の中央に位置させた。剥離強度は、サンプルシートが、腹側部Ａ側の部分及び背側部Ｂ側の部分とに分断されるまでの引っ張り過程における最大点荷重である。

【００３８】
また、弱シール領域４２の長さは、サイドシール部４の全長Ｌ４の、好ましくは１０％以上、より好ましくは２０％以上であり、また、好ましくは５０％以下、より好ましくは４０％以下である。また、サイドシール部４の上端４ｕから弱シール領域４２までの距離は、好ましくは１０ｍｍ以上、より好ましくは２０ｍｍ以上であり、また、好ましくは４０ｍｍ以下、より好ましくは３０ｍｍ以下である。

【００３９】
上述した実施形態のおむつ１について更に説明すると、腹側シート部材２Ａ及び背側シート部材２Ｂの伸縮部Ｇ１～Ｇ３の何れにおいても、外層シート２２と内層シート２３との間が、散点状に形成された多数の融着部（接合部）２６において接合されており、弾性部材２４が、それらの融着部２６を通らないように配されている。
より具体的には、伸縮部Ｇ１～Ｇ３には、Ｘ方向に接合部２６が間欠的に直列配置されてなる接合部列が、Ｙ方向に複数列形成されており、それらの接合部列における各接合部のＸ方向が一致している。
そして、腹側シート部材２Ａ及び背側シート部材２Ｂの伸縮部Ｇ１～Ｇ３の何れにおいても、複数本の弾性部材２４が、それぞれ、Ｘ方向において隣り合う接合部２６間を通るように配されている。また、各弾性部材２４は、後述する側部接着領域２７又は吸収性本

体側接着領域２８においてシート２２，２３間に固定されている一方、それ以外の部位においては、シート２２，２３の何れにも固定されていない。

【００４０】

腹側シート部材２Ａは、図３に示すように、腹側シート部材の両側縁部２ａ，２ａ又はその近傍に、外層シート２２と内層シート２３との間が接着剤を介して接合された側部接着領域２７を有している。また、腹側シート部材２Ａは、側部接着領域２７よりおむつ幅方向中央側に、外層シート２２と内層シート２３との間が接着剤を介して接合された吸収性本体側接着領域２８を有している。

背側シート部材２Ｂは、図４に示すように、背側シート部材の両側縁部２ｂ，２ｂ又はその近傍に、外層シート２２と内層シート２３との間が接着剤を介して接合された側部接着領域２７を有している。また、背側シート部材２Ｂも、側部接着領域２７よりおむつ幅方向中央側に、外層シート２２と内層シート２３との間が接着剤を介して接合された吸収性本体側接着領域２８を有している。

【００４１】

そして、腹側シート部材２Ａ及び背側シート部材２Ｂの何れにおいても、ウエスト伸縮部Ｇ１に配された弾性部材２４は、一対の側部接着領域２７それぞれにおいてシート２２，２３間に固定されている一方、側部接着領域２７間においては、シート２２，２３の何れにも固定されていない。他方、腹側シート部材２Ａ及び背側シート部材２Ｂの何れにおいても、胴回り伸縮部Ｇ２又は延出部伸縮部Ｇ３に配された弾性部材２４は、側部接着領域２７及び吸収性本体側接着領域２８のそれぞれにおいてシート２２，２３間に固定されている一方、側部接着領域２７と吸収性本体側接着領域２８との間においては、シート２２，２３の何れにも固定されていない。吸収性本体側接着領域２８は、図３及び図４に示すように、おむつ幅方向外側の端が、吸収性本体３の側縁３ｃの位置よりおむつ幅方向の内側（中央側）に位置するように形成されているが、これに代えて、吸収性本体３の側縁３ｃの内外に亘るように形成したり、吸収性本体３の側縁３ｃよりおむつ幅方向の外方に形成することもできる。

【００４２】

ウエスト伸縮部Ｇ１，胴回り伸縮部Ｇ２及び延出部伸縮部Ｇ３においては、弾性部材２４が収縮することにより、隣接する接合部列間のシート２２及び２３が外方に膨らむように変形して、隣接する接合部列間にシート２２又はシート２３からなる襞２９が生じると共に、両シート２２，２３間には、襞２９と襞２９とに周囲を囲まれた中空部３０が形成される（図７参照）。

【００４３】

背側延出部２１ｂの長さＬ６（図２参照）は、背側シート部材２Ｂの長さＬｂ（図２参照）の５～６０％、特に２０～４０％であることが好ましい。

【００４４】

外層シート２２及び内層シート２３としては、この種の物品に従来使用されている各種のシート材を特に制限なく用いることができるが、不織布であることが好ましく、特に柔軟性等の観点から、エアースルー不織布、ヒートロール不織布、スパンレース不織布、スパンボンド不織布、メルトブローン不織布等からなる単層の不織布又は２層以上の積層不織布であることが好ましい。また、これらの不織布とフィルムとを一体化したシートでもよい。シール強度低減材としてのシート材としても、この種の物品に従来使用されている各種のシート材を特に制限なく用いることができるが、不織布であることが好ましく、柔軟性等の観点から、エアースルー不織布、ヒートロール不織布、スパンレース不織布、スパンボンド不織布、メルトブローン不織布等からなる単層の不織布又は２層以上の積層不織布であることが好ましい。

弾性部材２４の形成材料としては、使い捨ておむつや生理用ナプキン等の吸収性物品に用いられる各種公知の弾性材料を特に制限なく用いることができる。弾性材料としては、例えば、スチレン－ブタジエン、ブタジエン、イソプレン、ネオプレン等の合成ゴム、天然ゴム、ＥＶＡ、伸縮性ポリオレフィン、ポリウレタン等を挙げることができる。弾性部

材の形態としては、断面が矩形、正方形、円形、多角形状等の糸状（糸ゴム等）若しくは紐状（平ゴム等）のもの、又はマルチフィラメントタイプの糸状のもの等を好ましく用いることができる。

【００４５】

以上、本発明をその好ましい実施形態に基づき説明したが、本発明は上述した実施形態に制限されず適宜変更可能である。

例えば、本発明におけるパンツ型吸収性物品は、腹側部、股下部及び背側部に亘る連続した砂時計状の外包材と、該外包材の内面側に固定された吸収性本体とを備え、腹側部における外包材の両側縁部と背側部における外包材の両側縁部とが接合されて、一対のサイドシール部、ウエスト開口部及び一対のレッグ開口部が形成されているパンツ型吸収性物品であっても良い。

また、上述したおむつ１にように、背側シート部材２Ｂ（背側部）に延出部２１ｂを設けるのに代えて、腹側シート部材２Ａ（腹側部）に延出部を設けても良いし、両方に、サイドシール部４より下方に延出する延出部を設けても良いし、両方に、サイドシール部４より下方に延出する延出部を設けなくても良い。

【００４６】

背側シート部材２Ｂ（背側部）及び腹側シート部材２Ａ（腹側部）の何れか一方を、通常のおむつと同様の構成としても良い。

【００４７】

また、腹側シート部材２Ａと背側シート部材２Ｂは、それぞれ、弾性部材２４と重ならないように形成されたドット状の接合部２６を有するものに代えて、おむつ外面をなす外層シート２２とその内側に配された内層シート２３とが全域において接着された構造を有するものであっても良い。また、ウエスト伸縮部Ｇ１、胴回り伸縮部Ｇ２、延出部伸縮部Ｇ３は、それぞれ、その全体又は一部が、おむつ外面をなす外層シート２２とその内側に配された内層シート２３とが全域において接着された構造を有するものであっても良い。また、胴回り伸縮部Ｇ２を、腹側シート部材２Ａ及び／又は背側シート部材２Ｂの全幅に亘るように形成しても良く、延出部伸縮部Ｇ３も、腹側シート部材２Ａ及び／又は背側シート部材２Ｂの全幅に亘るように形成しても良い。

【００４８】

また、サイドシール部４は、腹側及び背側シート部材の側縁部２ａ，２ｂを接合して形成されているが、サイドシール部４の外側に腹側シート部材２Ａと背側シート部材２Ｂとが接合されていない細幅（例えば０ｍｍ超２０ｍｍ以下）の非接合部分を有していてもよい。

【００４９】

また、パンツ型吸収性物品は、幼児又は成人用のパンツ型使い捨ておむつの他、パンツ型の生理用ナプキン等であっても良い。

上述した一の実施形態における説明省略部分及び一の実施形態のみが有する要件は、それぞれ他の実施形態に適宜適用することができ、また、各実施形態における要件は、適宜、実施形態間で相互に置換可能である。

【００５０】

上述した実施形態に関し、本発明はさらに以下のパンツ型吸収性物品を開示する。

＜１＞

着用者の腹側に配される腹側部、着用者の股間部に配される股下部及び着用者の背側に配される背側部を備え、腹側部の両側縁部と背側部の両側縁部とが接合されて、一対のサイドシール部、及び上端にウエスト開口部を有する筒状胴回り部が形成されている、パンツ型吸収性物品であって、

前記サイドシール部は、シール強度が相対的に高いシール領域に上下を挟まれた弱シール領域を有しており、

腹側部及び背側部のそれぞれに、筒状胴回り部の周方向に延びる弾性部材が上下方向に間隔を設けて複数本配されており、腹側部及び背側部の少なくとも一方に、相対的に細い

弾性部材が配された弱伸長応力域及び相対的に太い弾性部材が配された強伸長応力域が形成されており、
強伸長応力域は、弱伸長応力域より下方に位置し、弱伸長応力域及び強伸長応力域それぞれの一部分が、筒状胴回り部における、弱シール領域に対応する高さ範囲内に位置し、弱伸長応力域と強伸長応力域との境界が、同高さ範囲内に位置している、パンツ型吸収性物品。
【００５１】
＜２＞
前記サイドシール部は、前記弱シール領域より上側のシール領域のシール強度と、該弱シール領域より下側のシール領域のシール強度とが同じである、前記＜１＞に記載のパンツ型吸収性物品。
＜３＞
腹側部及び背側部の両方に、前記弱伸長応力域及び前記強伸長応力域が形成されている、前記＜１＞又は＜２＞に記載のパンツ型吸収性物品。
＜４＞
前記弱伸長応力域に配する弾性部材の太さと、前記強伸長応力域に配する弾性部材の太さの差は、１００ｄｔｅｘ以上、好ましくは４００ｄｔｅｘ以上であり、好ましくは、１０００ｄｔｅｘ以下、より好ましくは７００ｄｔｅｘ以下である、前記＜１＞～＜３＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。
＜５＞
前記弱伸長応力域に配する弾性部材の太さは、好ましくは６００ｄｔｅｘ以下、より好ましくは４００ｄｔｅｘ以下であり、また、好ましくは２００ｄｔｅｘ以上、より好ましくは３００ｄｔｅｘ以上である、前記＜１＞～＜４＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。
＜６＞
前記強伸長応力域に配する弾性部材の太さは、好ましくは７００ｄｔｅｘ以上、より好ましくは８００ｄｔｅｘ以上であり、また、好ましくは１０００ｄｔｅｘ以下、より好ましくは９００ｄｔｅｘ以下である、前記＜１＞～＜５＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。
＜７＞
前記強伸長応力域に配された弾性部材の内、前記弱シール領域に対応する高さ範囲（Ｓ２）内に位置する弾性部材の本数（上下方向に間欠配置する弾性部材の本数）は、１本以上であり、好ましくは２本以上、より好ましくは３本以上である、前記＜１＞～＜６＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。
＜８＞
前記弱伸長応力域に配された弾性部材の内、前記弱シール領域に対応する高さ範囲（Ｓ２）内に位置する弾性部材の本数（上下方向に間欠配置する弾性部材の本数）は、２本以上であり、好ましくは４本以上である、前記＜１＞～＜７＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。
＜９＞
前記弱伸長応力域は、上下方向の一定幅あたりの伸長応力が、前記強伸長応力域よりも小さい、前記＜１＞～＜８＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。
【００５２】
＜１０＞
前記弱シール領域は、シール強度が、好ましくは３０Ｎ／３０ｍｍ以下、より好ましくは２５Ｎ／３０ｍｍ以下であり、また、好ましくは１０Ｎ／３０ｍｍ以上、より好ましくは１５Ｎ／３０ｍｍ以上である、前記＜１＞～＜９＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。
＜１１＞
前記弱シール領域より上側の前記シール領域と前記弱シール領域とのシール強度の差、

及び該弱シール領域より下側の前記シール領域と該弱シール領域とのシール強度の差は、それぞれ、好ましくは５Ｎ／３０ｍｍ以上、より好ましくは１０Ｎ／３０ｍｍ以上であり、また、好ましくは２０Ｎ／３０ｍｍ以下、より好ましくは１５Ｎ／３０ｍｍ以下である。前記＜１＞～＜１０＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

＜１２＞

前記腹側部及び／又は前記背側部において、前記弱伸長応力域及び前記強伸長応力域に配する弾性部材の伸長倍率が同程度である、前記＜１＞～＜１１＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

＜１３＞

前記弱伸長応力域及び前記強伸長応力域の何れについても、弾性部材の伸長倍率が、好ましくは２～４倍であり、より好ましくは２．５～３．５倍である、前記＜１＞～＜１２＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

＜１４＞

前記弱シール領域は、シール強度低減材を、サイドシール部に配して形成されている、前記＜１＞～＜１３＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

＜１５＞

前記シール強度低減材が、シート材及びホットメルト接着剤の少なくとも一方である、前記＜１＞～＜１４＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

【００５３】

＜１６＞

外包材と、該外包材の内面側に固定された吸収性本体とを備え、腹側部における外包材の両側縁部と背側部における外包材の両側縁部とが接合されて、一対のサイドシール部、ウエスト開口部及び一対のレッグ開口部が形成されており、

前記外包材は、外層シートと、外層シートの内面側に配された内層シートと、両シート間に配された複数本の糸状の弾性部材を備えており、

腹側部及び背側部の何れか一方又は双方における前記内層シートの内面側に、本体端部固定用シートが配されており、

前記本体端部固定用シートは、前記内層シート側の面が、前記吸収性本体の端部における肌当接面及び前記内層シートに接着剤を介して接合されているとともに、前記サイドシール部における、腹側部側の内層シートと背側部側の内層シートとの間に介在して、該サイドシール部に前記弱シール領域を形成している、前記＜１＞～＜１５＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

＜１７＞

前記本体端部固定用シート、及び前記本体端部固定用シートと前記内層シートとの間に配されたホットメルト接着剤が、シール強度低減材として機能する、前記＜１４＞～＜１６＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

＜１８＞

サイドシール部の上端から、弱伸長応力域と強伸長応力域との境界までの距離Ｌ３が、サイドシール部の全長の２０％以上６０％以下である、前記＜１＞～＜１７＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

＜１９＞

サイドシール部の上端から、弱伸長応力域と強伸長応力域との境界までの距離Ｌ３は、サイドシール部の全長（上下方向の長さ）の好ましくは、２０％以上６０％以下であり、より好ましくは３０％以上５０％以下である、前記＜１＞～＜１８＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

＜２０＞

前記弱シール領域の長さは、サイドシール部の全長の、好ましくは１０％以上、より好ましくは２０％以上であり、また、好ましくは５０％以下、より好ましくは４０％以下である、前記＜１＞～＜１９＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

＜２１＞

サイドシール部の上端から弱シール領域までの距離は、好ましくは１０ｍｍ以上、より好ましくは２０ｍｍ以上であり、また、好ましくは４０ｍｍ以下、より好ましくは３０ｍｍ以下である、前記＜１＞～＜２０＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

＜２２＞

着用者の腹側に配される腹側シート部材と、着用者の背側に配される背側シート部材と、腹側シート部材及び背側シート部材に架け渡して固定された吸収性本体とを具備し、腹側シート部材の両側縁部と背側シート部材の両側縁部とが接合されて、前記一対のサイドシール部及び筒状胴回り部が形成されている、前記＜１＞～＜２１＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

【００５４】

＜２３＞

腹側シート部材は、物品長手方（Ｘ方向）の長さＬａが、前記サイドシール部の長さＬ４と同じであり、左右両側にサイドシール部を有する本体部を有する一方、該本体部から股下部側に延出する延出部を有していない、前記＜１＞～＜２２＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

＜２４＞

背側シート部材は、物品長手方（Ｘ方向）の長さＬｂが、前記サイドシール部の長さＬ４よりも長く、それによって、左右両側にサイドシール部を有する本体部と、該本体部から股下部側に延出し、左右両側にサイドシール部を有しない延出部とが形成されている、前記＜１＞～＜２３＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

＜２５＞

前記吸収性本体は、液透過性の表面シート、液不透過性又は撥水性の裏面シート、及び両シート間に介在配置された液保持性の吸収体を有しており、物品長手方向に長い長方形状に形成されている、前記＜１＞～＜２４＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

＜２６＞

前記吸収体は、物品長手方向に長い長方形状に形成されており、該吸収体は、その長手方向の両側に、吸収性コアの形成材料が存在しないか又は該形成材料の坪量が他の部分より少ない低剛性部を有している、前記＜１＞～＜２５＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

＜２７＞

前記吸収性本体の長手方向の両側部には、液抵抗性ないし撥水性で且つ通気性の素材から構成された側方カフスが形成されている、前記＜１＞～＜２６＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

＜２８＞

前記腹側シート部材及び前記背側シート部材は何れも、物品の外面をなす外層シートと、外層シートの内面側に配された内層シートと、両シート間に配された複数本の糸状の弾性部材を備えている、前記＜１＞～＜２８＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

。

＜２９＞

前記弱シール領域を形成するシール強度低減材が、腹側部を形成する部材又は腹側シート部材のみに配されている、前記＜１＞～＜２８＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

＜３０＞

前記弱シール領域を形成するシール強度低減材が、背側部を形成する部材又は背側シート部材のみに配されている、前記＜１＞～＜２８＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

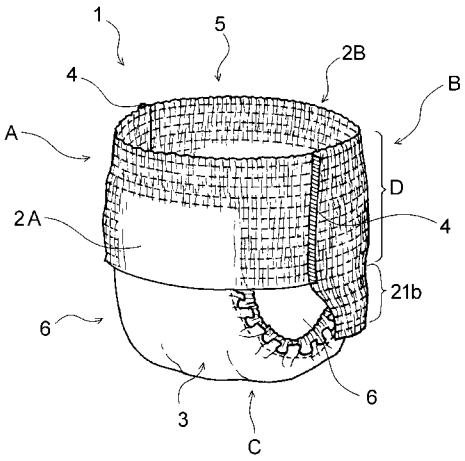
＜３１＞

腹側部において、前記弱シール領域を形成するシール強度低減材としてのシート材が、腹側部の両側部のみに配されている、前記＜１＞～＜３０＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。

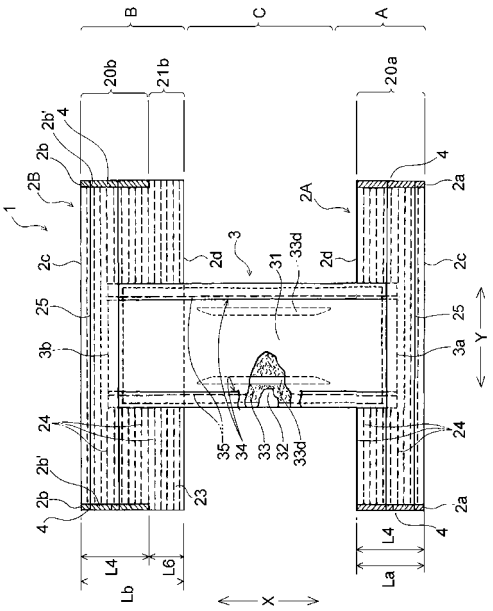
＜３２＞
背側部において、前記弱シール領域を形成するシール強度低減材としてのシート材が、背側部の両側部のみに配されている、前記＜１＞～＜３１＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。
【００５５】
＜３３＞
腹側シート部材は、左右両側にサイドシール部を有する腹側本体部を有し、前記背側シート部材は、左右両側にサイドシール部を有する背側本体部と、該背側本体部から股下部側に延出し、左右両側にサイドシール部を有しない背側延出部とを有しており、
前記腹側本体部及び前記背側本体部に、それぞれ、ウエスト伸縮部及び胴回り伸縮部が形成され、前記背側延出部に、延出部伸縮部が形成されている、前記＜１＞～＜３３＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。
＜３４＞
腹側シート部材及び背側シート部材の、前記ウエスト伸縮部、前記胴回り伸縮部及び前記延出部伸縮部においては、それぞれ、外層シートと内層シートとの間が、散点状に形成された多数の接合部（好ましくは融着部）において接合されており、弾性部材が、それらの接合部（好ましくは融着部）を通らないように配されている、前記＜１＞～＜３３＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。
＜３５＞
前記ウエスト伸縮部、前記胴回り伸縮部及び前記延出部伸縮部のそれぞれには、物品長手方向に前記接合部が間欠的に直列配置されてなる接合部列が、物品横方向に複数列形成されており、それらの接合部列における各接合部の物品長手方向の位置が一致している、前記＜１＞～＜３４＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。
＜３６＞
腹側シート部材及び背側シート部材の、前記ウエスト伸縮部、前記胴回り伸縮部及び前記延出部伸縮部においては、複数本の弾性部材が、それぞれ、物品長手方向において隣り合う接合部間を通るように配されている、前記＜１＞～＜３６＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。
＜３７＞
前記背側延出部の物品長手方向の長さＬ６は、前記背側シート部材の同方向の長さＬｂの５～６０％であり、好ましくは２０～４０％である、前記＜１＞～＜３６＞の何れか１に記載のパンツ型吸収性物品。
【符号の説明】
【００５６】
１　パンツ型使い捨ておむつ（パンツ型吸収性物品）
２Ａ　腹側シート部材
２０ａ　腹側本体部
Ｄ１　弱伸長応力域
Ｄ２　強伸長応力域
２２　外層シート
２３　内層シート
２４　弾性部材
２５　本体端部固定用シート（シール強度低減材）
２Ｂ　背側シート部材
２０ｂ　背側本体部
２１ｂ　延出部
Ｄ３　弱伸長応力域
Ｄ４　強伸長応力域
３　吸収性本体
３１　表面シート

３２　裏面シート
３３　吸収体
４　サイドシール部
４２　弱シール領域
４１，４３　弱シール領域よりシール強度が高いシール領域
４ｕ　上端
４ｄ　下端
５　ウエスト開口部
６　レッグ開口部
Ａ　腹側部
Ｂ　背側部
Ｃ　股下部
Ｄ　筒状胴回り部
Ｓ２　筒状胴回り部における、弱シール領域に対応する高さ範囲

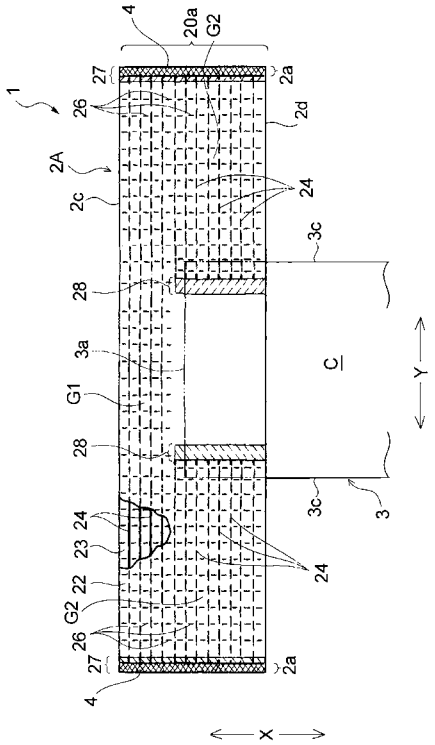
【図１】



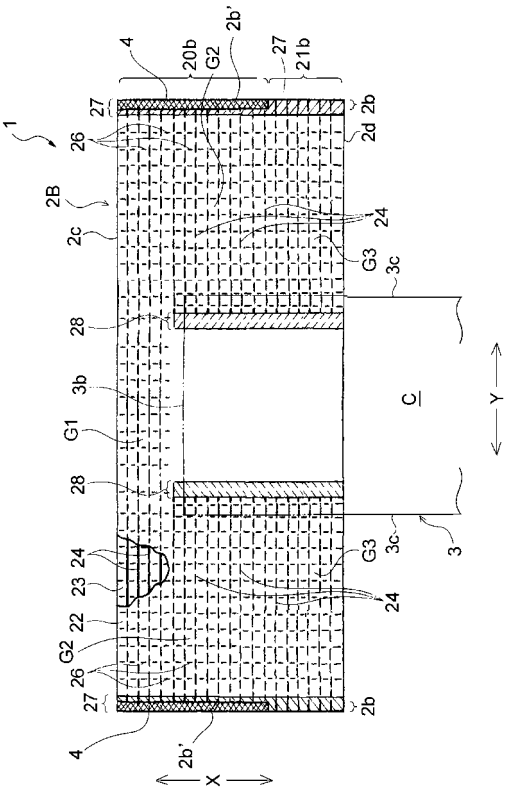
【図２】



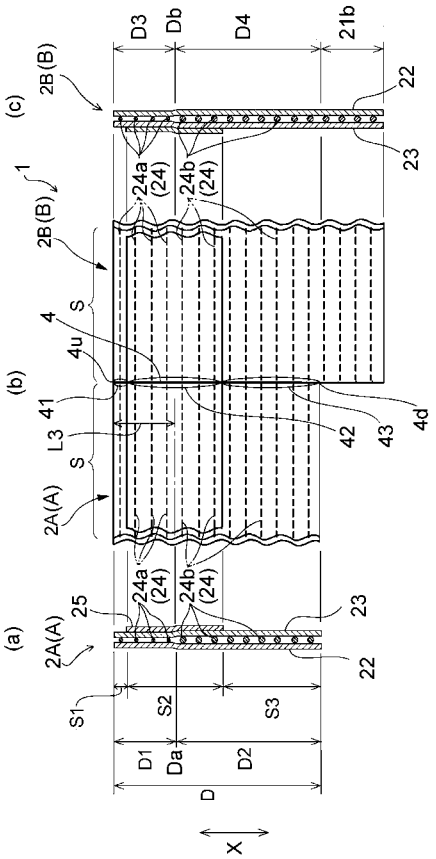
【図３】


4
20a
G2
1
27
26
2a
2d
2A
2c
24
3c
28
3a
G1
C
Y
3
23
22
X

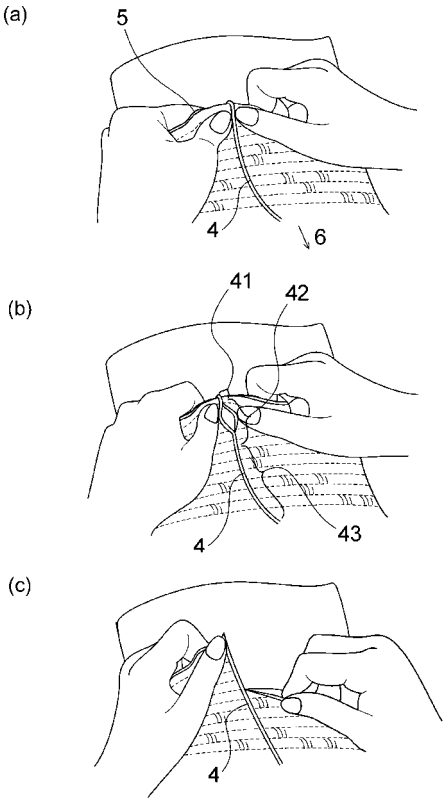
【図４】


4
20b
G2
2b'
27
21b
1
2b
2d
26
2B
2c
24
G3
3c
28
3b
G1
C
Y
3
23
22
2b'
X

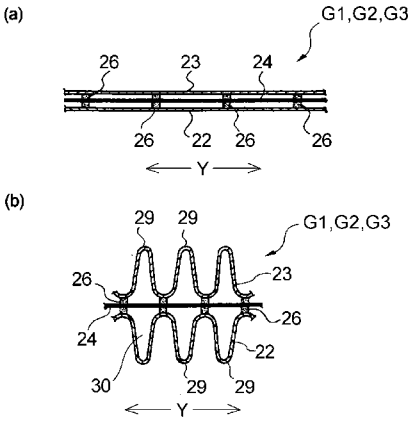
【図５】


D3
Db
D4
21b
(c)
2B(B)
22
23
24a (24)
24b (24)
1
(b)
4
S
4u
41
L3
42
43
4d
2A(A)
(a)
25
S1
S2
S3
D1
Da
D2
D
X

【図６】


(a)
5
4
6
(b)
41
42
43
(c)

【図７】


(a)
G1,G2,G3
26
23
24
26
22
26
26
Y
(b)
29
29
G1,G2,G3
26
23
26
24
22
30
29
29
Y

フロントページの続き

(72)発明者　内田　哲史
栃木県芳賀郡市貝町赤羽２６０６　花王株式会社研究所内
(72)発明者　鈴木　陽一
栃木県芳賀郡市貝町赤羽２６０６　花王株式会社研究所内

Ｆターム(参考) 3B200 AA01　BA13　BA16　CA04　EA12